

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成20年10月23日(2008.10.23)

【公表番号】特表2002-519072(P2002-519072A)

【公表日】平成14年7月2日(2002.7.2)

【出願番号】特願2000-558236(P2000-558236)

【国際特許分類】

C 1 2 Q	1/68	(2006.01)
C 1 2 N	1/15	(2006.01)
C 1 2 N	1/19	(2006.01)
C 1 2 N	1/21	(2006.01)
C 1 2 N	5/10	(2006.01)
C 1 2 N	15/09	(2006.01)

【F I】

C 1 2 Q	1/68	A
C 1 2 N	1/15	
C 1 2 N	1/19	
C 1 2 N	1/21	
C 1 2 N	5/00	A
C 1 2 N	15/00	Z N A A

【手続補正書】

【提出日】平成20年9月4日(2008.9.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 植物の害虫\_蔓延を軽減する方法であって、

a) 該害虫から、その生存、生長、増殖に臨界的なDNA配列を同定し、

b) 工程a)からの配列またはそのフラグメントを適當なベクター中、プロモーター(類)に対して、該プロモーター(類)に適當な転写因子が結合すると該プロモーター(類)が該DNA配列のRNAまたはdsRNAへの転写を開始できるような配向にクローニングし、

c) 該ベクターを植物に導入することを特徴とする方法。

【請求項2】 該害虫が植物を餌にする害虫である請求項1記載の方法。

【請求項3】 該害虫が線虫類である請求項1または2記載の方法。

【請求項4】 該線虫類がチレンクルス・エスピ- (Tylenchulus ssp.)、ロドホルス・エスピ- (Radopholus ssp.)、ラジナフェレンクス・エスピ- (Rhadinaphelenchus ssp.)、ヘテロデラ・エスピ- (Heterodera ssp.)、ロチレンクルス・エスピ- (Rotylenchulus ssp.)、プラチレンクルス・エスピ- (Pratylenchus ssp.)、ベロノライムス・エスピ- (Belonolaimus ssp.)、カンジャヌス・エスピ- (Canjanus ssp.)、メロイドジン・エスピ- (Meloidogyne ssp.)、グロボデラ・エスピ- (Globodera ssp.)、ナコブス・エスピ- (Nacobbus ssp.)、ジチレンクス・エスピ- (Ditylenchus ssp.)、アフェレンコイデス・エスピ- (Aphelenchoides ssp.)、ヒルシュメニエラ・エスピ- (Hirschmanniella ssp.)、アンギナ・エスピ- (Anguina ssp.)、ホプロライムス・エスピ- (Hoplolaimus ssp.)、ヘリオチレンクス・エスピ- (Heliotylenchus ssp.)、クリコネメラ・エスピ- (Criconemella ssp.)、キシフィネマ・エスピ- (Xiphinema

ssp.)、ロンギドルス・エスピ- (Longidorus ssp.)、トリコドルス・エスピ- (Trichodorus ssp.)、パラトリコドルス、エスピ- (Paratrichodorus ssp.)、アフェレンチス・エスピ- (Aphelenchs ssp.)のいずれかである請求項3記載の方法。

【請求項5】 該害虫が昆虫である請求項1または2記載の方法。

【請求項6】 プロモーターに転写因子が結合すると、DNAのdsRNAへの転写がもたらされるように2つのプロモーター間に該DNA配列が提供される請求項1~5のいずれか1項記載の方法。

【請求項7】 プロモーターに転写因子が結合すると、DNAのdsRNAへの転写がもたらされるように該プロモーターに対してセンスおよびアンチセンス配向で該DNA配列が提供される請求項1~6のいずれか1項記載の方法。

【請求項8】 該プロモーターが組織特異的プロモーターである請求項1~7のいずれか1項記載の方法。

【請求項9】 該プロモーターが根特異的プロモーターである請求項8記載の方法。

【請求項10】 植物の寄生虫蔓延を軽減するための請求項1~9のいずれか1項記載の方法。

【請求項11】 植物害虫の生存、生長、増殖に臨界的な植物害虫由来のDNA配列を含む植物であって、該DNA配列またはそのフラグメントが適当なベクター中、プロモーター(類)に対して、該プロモーター(類)に適当な転写因子が結合すると該プロモーター(類)が該DNA配列のRNAまたはdsRNAへの転写を開始できるような配向にクローニングされているところの、植物。

【請求項12】 プロモーターに転写因子が結合すると、DNAのdsRNAへの転写がもたらされるように2つのプロモーター間に該DNA配列が提供されている請求項1記載の植物。

【請求項13】 プロモーターに転写因子が結合すると、DNAのdsRNAへの転写がもたらされるように該プロモーターに対してセンスおよびアンチセンス配向で該DNA配列が提供されている請求項11または12記載の植物。

【請求項14】 該プロモーターが組織特異的プロモーターである請求項11~13のいずれか1項記載の植物。

【請求項15】 該プロモーターが根特異的プロモーターである請求項14記載の植物。

【請求項16】 植物害虫の生存、生長、増殖に臨界的な植物害虫由来のDNA配列の植物の害虫蔓延を軽減するための使用であって、該DNA配列またはそのフラグメントが適当なベクター中、プロモーター(類)に対して、該プロモーター(類)に適当な転写因子が結合すると該プロモーター(類)が該DNA配列のRNAまたはdsRNAへの転写を開始できるような配向にクローニングされているところの、使用。

【請求項17】 プロモーターに転写因子が結合すると、DNAのdsRNAへの転写がもたらされるように2つのプロモーター間に該DNA配列が提供されている請求項16記載の使用。

【請求項18】 プロモーターに転写因子が結合すると、DNAのdsRNAへの転写がもたらされるように該プロモーターに対してセンスおよびアンチセンス配向で該DNA配列が提供されている請求項16または17記載の使用。

【請求項19】 該プロモーターが組織特異的プロモーターである請求項16~18のいずれか1項記載の使用。

【請求項20】 該プロモーターが根特異的プロモーターである請求項19記載の使用。